

■和田豊治 わだとよじ 遣欧使節・	実業家。富士紡績会社はじめ、創立に携わった会社は数十社を超え、渋沢栄一後継自認の“財界世話人”。
1861＝	豊前国中津で、代々藩主の家臣で儒学者の和田薫六の長男に生まれる。母の父は習字の先生。
明治維新・	1868＝ 7歳：
初の日刊新聞	1870＝ 9歳：
明治6年政変	1873＝12歳：
沖縄県編入・	1879＝18歳：
明治14年政変	1881＝20歳：
新体詩抄・	1882＝21歳：
秩父事件・	1884＝23歳：
内閣発足・	1885＝24歳：
国民之友始・	1887＝26歳：
初の対等条約	1888＝27歳：
帝国憲法発布	1889＝28歳：
帝国議会始・	1890＝29歳：
大本教・	1892＝31歳：
郡司千島探検	1893＝32歳：
日清戦争始・	1894＝33歳：
八幡製鉄始・	1897＝36歳：
子規句歌革新	1898＝37歳：
ビアノ国産化・	1900＝39歳：
田中正造直訴	1901＝40歳：
日露戦争終・	1905＝44歳：
満鉄発足・	1906＝45歳：
韓国反日暴動	1907＝40歳：
伊藤博文暗殺	1909＝48歳：
大逆事件判決	1911＝50歳：
明治天皇没・	1912＝51歳：
大正政変・	1913＝52歳：
第一次大戦始	1914＝53歳：
21ヶ条要求・	1915＝54歳：
民本主義・	1916＝55歳：
ロシア革命・	1917＝56歳：
本格政党内閣	1918＝57歳：
ベルセル条約・	1919＝58歳：
大暴落・	1920＝59歳：
原敬首相暗殺	1921＝60歳：
水平社結成・	1922＝61歳：
関東大震災・	1923＝62歳：
護憲三派圧勝	1924＝63歳：

はじめ川端楊坪の塾で書を学び、

次いで大久保逕造の塾で四書五経を修める。

藩校{進脩館}の後身中津の三田分校に入学して英学を修めながら、村上家に奇食して医者を目指し、代診まで務めていたと伝えられる。

上京し、小幡篤次郎の推薦で、慶應義塾本科に入学。6つ年下ながら2年早く入学した武藤山治がいた。

卒業すると、旧藩主の貢進生として武藤山治ら同窓生と渡米し、サンフランシスコで煙草工場の職工を経て、甲斐織衛の店に入ると、副支配人として面目を一新、生来負けず嫌いで、武藤が帰国後もアメリカに残り、

母の兄宮村三多が第1回衆議院議員甲斐織衛の商店や葉巻煙草製造所で職工として働く。帰国。京都での新聞記者を経て、日本郵船神戸支店へ入社したが、上司と衝突して、退社。武藤山治とともに三井銀行に入り、鐘ヶ淵紡績(鐘紡)東京本店の支配人に派遣されるが、武藤山治が鐘紡の新設兵庫工場の支配人に抜擢されると、社内で衝突するようになり、憂慮する重役陣により、三井呉服店の用命を受ける形で、アメリカの織布産業視察に出され、

帰国すると、三井呉服店を辞職。支那漫遊の旅に出、遼東還附、

義和団の乱を見聞して、帰国したところを、慶應同窓で鐘紡重役浜口吉右衛門の口利きで、*富士紡績専務取締役となった。以後、鐘紡の武藤山治とは、ともに財界の人気者として、紡績業界でライバル視されて行く。東洋協会評議員、南亜公司相談役となるなど、この間、多くの財界人に紹介されて起業等に関与、また、工場法制定へのオピニオン・リーダーともなって、信頼を勝ち得て行き、

武藤山治と共通の恩人朝吹英二が引退し、

*渋沢栄一が財界から身を引いた後は、井上準之助とともに“財界世話役”の後継を自認し、

藍綬褒章。渋沢栄一らと、九州水力電気会社を設立。最新鋭設備を備える川崎工場を建設、エジプトで行われた万国紡織聯合会に、日本国代表者として出席。東京商業会議所特別議員となり、日本興業銀行総裁を辞退。以来、国策に次々と関わるようになるとともに、多くの企業の創立に関与して、敏腕を振るう。

川崎工場に職工学校を設立。欧米を視察旅行、万国紡績大会に出席して、帰国。

明治神宮奉賛会理事長。

富士紡績社長となり、日本郵船取締役、東洋製鐵会社取締役。押上工場に富士女学校を設立。*同志とともに、使用者側の中核となる日本工業倶楽部を結成、

日華紡績会社社長。

輸出綿織物連合会組長、第一生命保険会社相談役。労使の協調会設立で理事になるも、藤山雷太の調整により、第1回国際労働会議資本家代表は武藤山治となる。

日華実業協会副会長。

皇典研究所理事、同仁会理事に就任し、理化学研究所創立にも奔走。

日本経済連盟会常務理事、南洋協会副会頭、山東鉱業会社を創立し、支那を漫遊。南満州鉄道株式会社に入り社長に推されるも辞退。ワシントン会議と期を同じくして、原敬首相官邸で話し合いが行われ、渋沢栄一以下、井上準之助、藤山雷太、団琢磨に自らを加えた五人が発起人となって実業団を編成して英米訪問実業団が途につくなどしたが、

山本内閣の下で、大臣待遇帝都復興審議会委員に招かれ、内務省社会局参与に就任した。

*多忙により健康を損ね、胃癌のため、志半ばで没した。(鵬会)を創立して中国を漫遊し、日中の友好と相互的経済発展を促進したことで知られる。